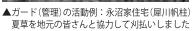
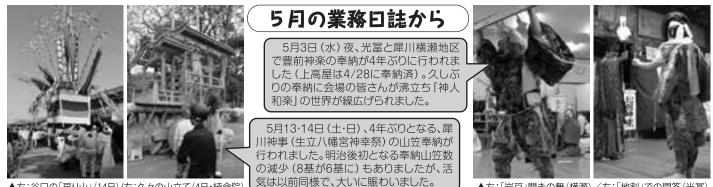
みやこ町歴史民俗博物館







ÆΤ

▲左:「岩戸」開きの舞(横瀬)/右:「地割」での問答(光冨)

▲左:谷口の「戻り山」(14日)/右:久々の山立て(4日・続命院)

博物館だより No.199

| 通して伝律等かの据点かあった可 通して伝律等かの据点かあった可 通して伝律等かの形点の思った」 に「犬ヶ岳ツクシシャク シャクナゲは、昭和40年(19 シャクナゲは、昭和40年(19 に「犬ヶ岳ツクシシャク たゲ自生地」として国指定天然 記念物に指定されています。 | の 「 の た っ て お す っ て お り 、 入 住 山 、 い ま す 。 豊 前 地 方 で は 昭 和 7 年 (1932) 8 月 11 日 から 5 年 (1932) 8 月 11 日 から 5 年 (1932) 8 月 11 日 から 5 5 日 に わ た っ て お り 、 大 分 県 の 植 物 同 好 会 ろ こ と が の 雨 を み る こ と が の 雨 を み る こ と が の 雨 を み る こ と が の 前 地 方 で は 昭 和 7 に 制 に わ た っ て お り 、 大 分 県 の 植 物 同 好 こ と が が ら 5 - で は 昭 和 7 - で は 昭 和 7 - の に し か ら 5 - 、 、 、 本 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 | ▲健作を内国勧業博覧会の ・ 体理作を内国勧業博覧会の の の の の の の の の の の の の の | そこで出展品の 大学学にあたる 生学で出展品の 世界を知る前 電うのだが… 思うのだが… | の2名が認当します く回はこ の1 の1 の1 の1 の1 の1 の1 の1 の1 の1 |
|--|--|--|---|---|
| | を背景には田中芳男の存在が影まで全国各地を巡り50万点以上まで全国各地を巡り50万点以上 | 事務員に推す田中芳男 り若化病吉9 まさしの田2 すで、喘ぎ健) 。亡41息ぎ作2 | () () () () () () () () () () | 田 義 した よ で は 「 場 の の く ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 |
| 行っています。このように数々国東北部)に渡り植物採集を外渡航調査」で満州(現在の中の80歳の時には、「人生初の海 | でてさが | とともに殖産興業の発展に努め ています。明 | 田中芳男です。彼は当館を含め、物の研究の基礎を教えた人物が、 | 祭に「~の父一と称することがこのような先人の功績を表す健作を対象としたものです。 |
| 文を執筆しています。この翌年ことなく「豊後梅」に関する論ています。その後、療養のため | 残されて田中芳男 | 高く評価します。その後もフラ擢し、これを成功させた健作を業博覧会」の事務員に健作を抜きたなないで、第一回内国動 | ています。この2て、それぞれ大きりながら異なる研 | この10名に兄弟でます。今回製作した名を対象に顕彰活動 |
| いたというエピソードが残さとツクシシャクナゲが握られを負いますが、手にはしっか | 学でまとめた「土佐植物目録」は、故郷の植物研究の成果を独的として上京します。この時彼 | 時、大久保護を | 麻業の父」と称されていま組んだ吉田健作も「日本近研究した後、麻の工業化に | をはじめ、みやこ |
| のとき背骨の2箇所を折る重傷際に崖から転落しています。こ「ツクシシャクナゲ」を掴んだ「ジュー | 業博覧会」を見学することを目微鏡を購入し、「第二回内国勧任(1881)4月、書籍や顕年(1881)4月、書籍や顕 | に生まれています。彼が勧業寮、8)8月に現在の長野県飯田市田中芳男は天保9年(183 | 十上で、様々な植(1862)4月(1862)4月 | みやこ町の先人にみる「~の父」-マンガでみる吉田兄弟の功績③ |
| また15どヒ | 月 に至れる | い「の日 ま日博す本物 | りです。女母富太 の父」と称された うです。女母富太 | 吉田増蔵(その十三) |